

第三者評価結果入力シート（乳児院）

種別	乳児院
----	-----

①第三者評価機関名

社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会 福祉サービス評価センターさが

②施設名等

名 称：	みどり園
施設長氏名：	堤 峯敏
定 員：	21名
所在地(都道府)	佐賀県
所在地(市町村)	佐賀市金立町金立大字金立2215-30
T E L：	0952-98-0247
U R L：	

③実施調査日

開始日	2013/9/12～13		西暦入力
評価結果確定日	2014/4/7		例) 2013/3/1

④総評

◇特に評価が高い点

養育者の愛情が育まれている個々の子どもの表情は、明るく安心と信頼の環境の中で養育・支援されている。

「担当制」を導入し、個々の状態の発達段階に応じてのきめ細やかな観察が記録されている。

体調、疾病、アレルギー等に対しては全職員が連携しながら、食育・健康等への配慮と努力が随所にみられる。

職員一人一人に沿った研修計画が実施されている。

◇改善が求められる点

基本的入所から退所まで一貫した担当制をとれる体制の検討が必要である。

子どもの安心・安全な睡眠が確保され、夜勤中の異常が発生した場合の職員体制の整備が求められる。

感染症やSIDS等の予防策に関する対応マニュアルを整備し、全職員での知識習得等が必要である。

今後、施設の新築に伴って、里親・ショート等の事業計画があり、職員・保護者・地域一体となつて、将来を見据えたビジョンを「中長期計画」を盛り込んだ取り組みを期待したい。

地域に開かれた支援事業所として、自治会・民生委員・児童相談委員等との連携による取り組みが望まれる。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

民間移譲後3年目で初の第三者評価受審でした。

職員全員が養育の方法、業務の見直し等の評価内容を分析検討して子ども達にとっての最善の利益に向けて更に取り組んでいきます。

第三者評価結果（乳児院）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① 子どものころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 乳幼児に対する受容的・応答性の高いかわりを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 日常養育における「担当養育制」を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 特別な配慮が必要な場合を除いては、基本的に入所から退所まで一貫した担当制をとっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 担当養育者と個別なかわりを持つことができる時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/> 語りかけや「だっこ」「おんぶ」などの身体のふれあいを通して心の安定を図り、心地よい状態を共有できるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> どの乳幼児も保護者、あるいは担当養育者、里親等、特定のおとなと個別のかわりを持つことができる体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 被虐待経験のある乳幼児等特別な配慮が必要な乳幼児に対しては、個々の状態に応じた関係づくりを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>② 子どもの遊びや食、生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。</p> <p><input type="checkbox"/> 日々の生活リズムは発達や子どもの気持ちに沿いながら一人一人にあった形で進められている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設は明るく衛生的で、子どもが安心して暮らせる温かな家庭的雰囲気がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 居室が安心して、くつろいだり落ち着ける場所になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 安定した環境の中、おもいおもいに遊ぶことができる安全で使いやすい遊具などがあり、自由に遊びに取り組めるよう配慮されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 満足しきれる養育者との遊びの時間を提供している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

<input type="checkbox"/> 自然と触れ合える外遊びを養育者との十分な応答を交え提供されている。	○
<input type="checkbox"/> 栄養だけではなく季節感を取り入れた食事が提供されている	○
<input type="checkbox"/> 他児と区別された「自分のもの」といえる玩具、食器、衣類、戸棚などを個別化が図られている。	
③ 子どもの発達を支援する環境を整えている。	b
<input type="checkbox"/> 入所までの生活環境や身体的成長の差等から生じる子ども一人一人の違いを十分に把握し尊重している。	○
<input type="checkbox"/> 養育者は、月齢による発達特性(自我の表出等)を認識し、養育に当たっている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもと養育者の信頼関係が築かれ、子どもが不安になった時など、いつでも応じられるように養育者が側にいるよう配慮されている。	○
<input type="checkbox"/> 一人一人の子どもの欲求や要求に対し、仕草や言葉でタイミング良く気持ちを受け止め対応している。	○
<input type="checkbox"/> 一人一人の子どもの要求に応じて、抱いたり声をかけるなど、ゆったりと接している。	○
<input type="checkbox"/> 個々の発達に合わせた分かりやすい穏やかな言葉づかいで、おだやかに話している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもへの働きかけが、制止や指示命令に偏らないよう適切なものであることが、確認できる体制がある。	
<input type="checkbox"/> 子どもへの言葉かけは、子どもの状態に応じた適切な言葉を用いることができるよう努めている。	○
<input type="checkbox"/> 言葉を獲得し話し始めた子どもの問いかけには、できる限りその場で対応している。	○
<input type="checkbox"/> 「いや」など駄々をこねたり、自分を表現する力がまだ十分でない子どもの気持ちをくみ取ろうとしている。	○

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

高い点＝子どもの表情が明るいなど、養育者の愛情が育まれている環境である。担当制を導入し、個々の状態を発達段階に応じて、きめ細やかに観察し記録を残し対応している。改善点＝環境面で一人一人の子どもに対しての遊び道具からロッカー等設備がなく、新築移転後を間近に控え、移転後の充実を期待する。

(2) 食生活

第三者
評価結果

① 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	c
<input type="checkbox"/> 1ヶ月以上児については自立授乳を基本にして、個々のリズムや体調に合わせて量や時間を工夫している。	○

<input type="checkbox"/> 授乳は、乳幼児を抱きながら、目を合わせ、やさしく言葉をかけている。	
<input type="checkbox"/> 授乳後は、吐乳・溢乳等を防ぐために排気を十分に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 一人飲みをさせていない。	
② 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 個々の状態に合わせて離乳を開始し、様々な食べ物に慣れさせている。	○
<input type="checkbox"/> 食事をいやがったり、遊び出してしまう場合にも、時間をかけてゆっくりとした気持ちで与えている。	
<input type="checkbox"/> 在胎期間も含め、入所に至るまでの経過や発育、発達状況を踏まえ、一人一人に合わせた食の取組が行われている。	
<input type="checkbox"/> 栄養士や調理員等が、食事の様子をみたり、介助するなか、一人一人の発育状況や体調を考慮した調理を工夫している。	○
③ 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	b
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	○
<input type="checkbox"/> 養育者や他児と一緒に食事を楽しんでいる。	○
<input type="checkbox"/> 月齢により、食事の準備や、食事作りを見たり、かかわる機会を持ち、食べることに関心を持つよう工夫されている。	○
<input type="checkbox"/> 食事の食べ方や量にばらつきがあっても全部食べることにこだわらず、おいしく楽しく食べられるように、子どもと視線を合わせ、様子をみながら言葉をかけるなど雰囲気づくりに気を配っている。	○
<input type="checkbox"/> 乳幼児が自分で食べようとする意欲を育てられるように、手に持って食べやすいものを用意したり、食器やスプーンなどに触れられるように配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 日々の食生活を通じて食べたいもの、好きなものが増える工夫がされている。	
<input type="checkbox"/> 乳幼児が食べやすいように、テーブル、椅子の高さを適切に調整している。	○
<input type="checkbox"/> お腹がすくリズムが持てるよう、朝食・昼食・夕食の間隔は適正になっている。	
<input type="checkbox"/> 乳幼児の嗜好を把握して献立に反映している。	
<input type="checkbox"/> 食後の歯磨きが定着するよう支援している。	○

<input type="checkbox"/> 栄養士、調理員等が、食事の様子をみたり、介助するなか、一人一人の発育状況や体調を考慮した調理を工夫している。	○
④ 栄養管理に十分な注意を払っている。	a
<input type="checkbox"/> 十分なカロリーと栄養のバランスよい献立が、栄養士により準備されている。	○
<input type="checkbox"/> 乳幼児の体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している。	○
<input type="checkbox"/> 残食調査を行うなど栄養摂取量の把握に努め、献立に反映している。	○
(3) 衣生活	第三者 評価結果
① 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	b
<input type="checkbox"/> 衣類は吸湿性・通気性に富み、清潔を保ち、肌に刺激の少ない材質を使用している。	
<input type="checkbox"/> 乳幼児の体型を考慮し、活動を阻害せず、着脱が容易なものを使用している。	○
<input type="checkbox"/> 気候調節へ配慮し、寒暖の状態に適した枚数と厚さにしている。	○
<input type="checkbox"/> 寝ている生活が主なときは前開きのものを、動きが活発になったら活動的で腹部や背中に出ないものを選ぶなど、生活実態に適し、個々の発達に応じた衣類管理を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 衣類は個別化し、個人別に収納している。	
(4) 睡眠環境等	第三者 評価結果
① 乳幼児が十分な睡眠をとれるように工夫している。	c
<input type="checkbox"/> 睡眠時の状況を観察している。	○
<input type="checkbox"/> 安心して心地よい眠りにつけるように、入眠時に子守唄を歌う等工夫している。	
<input type="checkbox"/> さわやかな目覚めになるように、目覚めたときに目線を合わせてやさしく声をかけている。	
② 快適な睡眠環境を整えるように工夫している。	b
<input type="checkbox"/> 湿温計を備え付け、乾燥時には加湿器、多湿期には除湿器などを使用し適温・適湿を保っている。	○

<input type="checkbox"/> 肌に触れる寝具は綿素材を用いている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 敷布団は硬めで薄いものを用いている	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 静かな環境を作っている。	
<input type="checkbox"/> 快適な睡眠環境を整えるために、具体的な独自の取り組みを行っている。	
③ 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a
<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴を毎日している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴に際し、おもちゃを用意し、心地よい体験になるよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> タオル・バスタオルは十分に洗濯・乾燥して常に清潔が保たれている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 乳幼児の年齢に適した入浴方法がとられている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 安心して、心地よく、楽しい入浴・沐浴になるような言葉掛けなどの配慮がなされている。	<input type="radio"/>

(5) 発達段階に応じた支援

第三者
評価結果

① 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/> おむつ交換のときに、言葉をかけながら身体をさするなどして、おむつ交換が心地よいものであることを伝えるように心がけている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、排泄への興味が持てるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、おむつが濡れていないときは、便座に誘導するなどして自分から便座に座る意欲を持てるように配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、個々の幼児のリズムや気持ちに合わせて誘導を行っている。	<input type="radio"/>
② 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	b
<input type="checkbox"/> 玩具の色・形や音色などを選ぶように工夫している。	
<input type="checkbox"/> 戸外に出かけ、外界への興味を広げられるように配慮している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 模倣遊びや職員や他の乳幼児とのふれあい遊びを通して、情緒の育成を図り、人との豊かなかかわりができるように配慮している。	○
<input type="checkbox"/> 養育者や他の子どもと楽しく遊ぶことができるよう心がけている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの五感を育てる遊びが提供できるよう工夫している。	○
<input type="checkbox"/> 玩具の個別化をしている。	
<input type="checkbox"/> 月齢により、個別の収納場所を設け自分の物という喜びや認識ができるよう工夫している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの手の届く所に玩具の収納場所を設け、年齢によっては自由に出し入れして遊べるようにしている。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

高い点＝子ども等の食生活については、体調、疾病、アレルギー等、細やかな工夫及び配慮されている。入浴・沐浴においても、個別に合った浴槽が完備されている。改善点＝乳幼児が安心・安全な睡眠がとれる環境の整備が必要と思われる。衣類・収納などの個別化が必要である。職員等の夜間体制の見直しが求められる。

(6) 健康と安全

第三者
評価結果

① 一人一人の乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	b
<input type="checkbox"/> 健康観察記録を作成し、日々の健康状態の変化が一目で把握できるように工夫している。	
<input type="checkbox"/> ミルクや離乳食を開始した当初には、発疹などアレルギー症状の出現に注意し、異常所見が見られた場合には速やかに医師に相談し対応策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 嘱託医による定期健康診断では、身体発育の状態や精神・運動発達・情緒的問題等について総合的な診察を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 乳幼児の条件や集団の構成に応じて、適宜予防接種を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 体温測定とその評価法などの日常的な健康管理に関するマニュアルを作成している。	
② 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	b
<input type="checkbox"/> 健康観察記録を行い、日々の健康状態の変化が一目で把握できるように工夫している。	
<input type="checkbox"/> 服薬管理表等により、適切な服薬管理を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 専門医の協力のもと、乳幼児の健康状態に応じた発達支援プログラムを作成して、乳幼児の適切な発達を支援している。	

<input type="checkbox"/> 専門医による定例的な診断を受けている。	○
<input type="checkbox"/> 異常所見がみられた場合には、速やかに主治医に相談できる連絡体制をとっている。	○
③ 感染症などへの予防策を講じている。	c
<input type="checkbox"/> 感染症が施設内に蔓延しないように必要な措置を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症に関する対応マニュアル等を作成し、感染症や食中毒が発生し、又は、まん延しないように必要な措置を講じるよう努めている。また、あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	
<input type="checkbox"/> 乳幼児突然死症候群(SIDS)や窒息の予防策に関するマニュアルを整備している。	
<input type="checkbox"/> 職員が、乳幼児突然死症候群(SIDS)や窒息についての知識を習得する機会を設けている。	
<input type="checkbox"/> また応急処置のスキルを高めるための取組を行っている。	○

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

高い点=感染症の予防策を踏まえて、主治医等との連携も図られている。改善点=感染症やSIDS等の予防策に関する対応マニュアルを整備し、全職員で知識を習得の必要がある。

(7) 心理的ケア

第三者
評価結果

① 乳幼児と保護者に必要な心理的支援を行っている。	c
<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする乳幼児について、保護者への支援も視野に入れた自立支援計画に基づきその解決に向けた心理支援プログラムが策定されている。	
<input type="checkbox"/> 心理支援プログラムにおいて個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的支援が実施されている。	
<input type="checkbox"/> 心理職をおき、乳幼児にも保護者にも心理的な援助が行える体制ができている。	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	
<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な乳幼児や保護者への対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

改善点=保護者に関しては、児童相談所への移行がみられ、施設独自の対応には問題点もあり苦慮されている状況ではあるが、問題点を一つひとつクリアしながら、子どもと保護者との自立支援に基づく体制へと努めて戴く必要がある。

(8) 継続性とアフターケア

第三者
評価結果

①	措置変更又は受入れを行うに当たり、継続性に配慮した対応を行っている。	b
	□措置変更之际、児童相談所をはじめとした関係機関と連携を取っている。	○
	□乳児院で生活していた時の成長発達の記録や成長のエピソードをまとめ、文章として措置変更先への伝達に心がけている。	○
	□児童相談所に対し、措置変更後も措置変更先への訪問と情報収集をお願いしている。	
	□措置変更先の職員と連携を密に行い、新しい施設環境に慣れるための具体的なプログラムを考え実行している。	
	□措置変更先の施設や里親と子どもの保護者との顔合わせ等の配慮を行っている。	
	□退所先の地域の関係機関と連携し、退所後の生活が安定するよう努めている。	
	□継続的な支援を行うための育ちの記録を作成している。	
	□前任の養育者や施設の担当者から後任の者へ適切に引き継がれている。	○
②	家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰の支援を行っている。	c
	□家庭復帰に至るまでの親子関係再構築のプログラムが立てられている。	
	□保護者の面会時に保護者自身の不安な気持ちや悩みに寄り添い、保護者との信頼関係を大切にしている。	
	□保護者と施設が一緒になって子どもの幸せを願い、育てていこうといった気持ちを保護者に理解してもらうよう努めている。	
	□退所後、保護者の求めに応じ、相談に乗ることや場合によっては家庭訪問をするように努めている。	
	□退所に当たってはケース会議を開催し、保護者の意向を踏まえて、児童相談所や関係行政機関と協議のうえ、適切な退所時期や退所後の生活を検討している。	○
	□子どもが退所する地域の関係機関と連携し、退所後の生活の支援体制の構築に努めている。	
	□退所後の施設として保護者や子どもが相談できる窓口を設置し、保護者や子どもに伝えている。	
③	子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	c
	□保護者が相談しやすいように、退所後の支援者とのかわりを継続している。	

<input type="checkbox"/> 児童相談所との連携の中で、退所後のリスクアセスメントを丁寧に行っている。また、復帰後の安全性への確認と、危機的状況が生じた場合の対応について検討し、具体的な手立てを明確化している。	○
<input type="checkbox"/> 具体的な支援者となる機関や人物と保護者が信頼関係を築けるように配慮している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの状況や家庭の状況を把握し、必要に応じて退所後の記録を整備している。	

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

改善点＝退所後の訪問等は児童相談所に任せきりとのことであるが、問題が山積している中で、今後は保護者・児童相談所・支援関係機関・施設(担当職員)等、連携体制が必要である。

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり

	第三者 評価結果
① 児童相談所と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている	b
<input type="checkbox"/> 家族との関係調整については、定例的かつ必要に応じて児童相談所等と協議を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設と家族が信頼関係を構築できるよう努めている。	
<input type="checkbox"/> 養育計画について、入所後も適宜、家族と確認しあう機会を設けている。	
<input type="checkbox"/> 家庭訪問や親との面接などを通じて家族への働きかけを行い、親子関係の継続や修復に努めている。	
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の乳幼児の様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかかわりの発見に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 乳幼児の協働養育者として、日常生活の様子について家族に伝えている。	
<input type="checkbox"/> 乳幼児に関係する地域、施設等の予定や情報を、家族に随時知らせている。	
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員をケアワークとは独立した専門職として配置し、その役割を明示している。	
<input type="checkbox"/> 児童相談所と協働し、家庭内で虐待の発生につながるようなリスク要因を取り除くための手立てを検討している。	○
<input type="checkbox"/> 児童相談所を中心とした他機関との協働により、虐待の未然防止と家族機能の再生に向けてのサービス資源の提供などのソーシャルワークを行っている。	
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	b